

インターネット 動向紹介

2025年2月～2025年5月の
インターネットトピックス

INTERNET TRENDS introduction

2025.02 ▶▶ 2025.05



▶ IP Address Topic ▶ Technology Topic ▶ Domain Name / Governance

IPアドレストピック

IPアドレスに関する動向として、2025年1月22日(水)～24日(金)に京都で開催されたJANOG55と、APRICOT 2025/APNIC 59の様子をお伝えします。

- 01 2025.1.22～1.24
京都府/
京都市勤業館みやこめっせ
JANOG55
- 02 2025.2.19～2.27
マレーシア/ペタリンジャヤ
APRICOT 2025/APNIC 59

JANOG55でJPNICが伝えたかったこと

2025年1月22日(水)から24日(金)にかけて、京都市勤業館みやこめっせでJANOG55ミーティングが開催されました。JPNICはブースを出展するとともに、次の二つのセッションに登壇しました。

- ROV導入を広げるために必要なことを議論するBoF
<https://www.janog.gr.jp/meeting/janog55/rpkibof/>
- IPアドレス管理機構をイチから再考する:
ICP-2 RIR認定要件の改定作業で未来を紡ぐ
<https://www.janog.gr.jp/meeting/janog55/rir/>

本稿では、JANOG55に参加することでJPNICが皆様にお伝えしたかったことを、簡潔にまとめます。

▼「ROV導入を広げるために必要なことを議論するBoF」について

本JANOG55では、RPKIおよびROV (Route Origin Validation) ^{※1}の普及に向けた取り組みについて議論が行われました。セッション「ROV導入を広げるために必要なことを議論するBoF」です。

2023年度から2024年度にかけて、国内のIX事業者においてRPKIキャッシュサーバの提供が開始されました。ROVの導入にあたって必要とな

るこのRPKIキャッシュサーバの運用については、一部運用することに関する不安が指摘される中、きちんと提供されるRPKIキャッシュサーバをISP事業者がどう受け止めているかが気になる話題です。ROVの利用者が増えることで、BGPの経路セキュリティが強化され、不正な経路からの影響が抑えられることが期待されています。

しかし、日本国内ではROAのカバー率は70%を超えており^{※2}高いものの、ROVの普及率が低いとされており^{※3}、不正経路への対策の観点で課題があります。この状況を踏まえ、JANOG55のこの「ROV導入を広げるために必要なことを議論するBoF」で、ROVの導入促進のために必要な取り組みについて意見が交わされたわけです。セッションの様子は動画で見ることができます^{※4}。

このBoFで、JPNICからは「日本のインターネットは守られているのか」というテーマで発表を行い、総務省の事業の一環として実施している「ROVの効果検証」について技術説明を行いました。

この「効果検証」は、ROVの普及によって国民生活に関わるサーバやサービスが不正なBGP経路の影響を受けずに済んでいるかを確認することを目的としています。その一環として、rov-check^{※5}というサイトを公開し、利用者が自身のアクセス元ネットワークの安全性を確認できる仕組みを提供しています^{※6}。

※1 BGP経路におけるASの正しさを示すデータ"ROA (Route Origin Authorization)"を用いた、BGP不正経路への対策となる設定。この設定を行うにはBGPルータの対応とRPKIキャッシュサーバが必要となります。

※2 Use of Route Object Validation for Japan
<https://stats.labs.apnic.net/roa/JP>

※3 Use of RPKI Validation for Japan
<https://stats.labs.apnic.net/rpki>

※4 JANOG55 ROV導入を広げるために必要なことを議論するBoF
<https://www.youtube.com/watch?v=IbnztIKQ9gI>

※5 rov-check
<https://rov-check.nic.ad.jp/>

※6 ROVの効果検証 - 現在、ROVの効果検証で利用しているASは国内のAS (JPNIC) であるため、国際的な視点での不正なBGP経路という観点では結果は一部に留まるなど、課題はあります。

○今後の展望

ROVの利用者が増えることで、BGPの経路セキュリティが強化され、不正な経路による影響の抑制が期待されていますが、ROVの導入拡大には、技術的な導入だけでなく、事業者間の協力や啓発活動も不可欠です。JPNICでは、引き続きROVの効果検証を進め、ROAの作成だけでなくROVの運用までを含めて推進していきます。

▼「IPアドレス管理機構をイチから再考する：

ICP-2 RIR認定要件の改定作業で未来を紡ぐ」について



このセッションは3日目、1月24日（金）の11:15から、第3展示場Bで開催されました。登壇はJPNICの前村に加えて、WIDEプロジェクトの白畑真さんの2名で、1時間の時間をいただきました。

○ICP-2改定とRIRの本質を考えるセッション

ICP-2 (Internet Coordination Policy 2) は、Criteria for Establishment of New Regional Internet Registries(新たな地域インターネットレジストリ設立のための要件)という2001年に定められた文書で、これへの充足を根拠に、LACNICとAFRINICが設立されました。

会員企業との係争がもとで理事を選出することができなくなり機能不全に陥っているAFRINICの状況に際して、このICP-2にそもそも機能不全に陥った場合の定めが何もないことに対処するために、ASO ACが2024年1月から改定の検討を進めています。改定に向けた原則案が2024年10月に公開され、意見聴取に掛かり、その集計が終わったと公表されたのが2025年1月20日でした。ASO ACではこの結果を基に改定案の検討に着手しており、改定案は完成次第、各RIRをはじめとするコミュニティの意見聴取にかかる予定です。

- JPNICブログ - ICP-2 新RIR設立要件の改定作業：

「原則案」に対する意見募集が始まりました。(和訳付き)

<https://blog.nic.ad.jp/2024/10159/>

- ASO AC - Concluding the ICP-2 Principles Consultation

<https://aso.icann.org/concluding-the-icp-2-principles-consultation/>

提案者の前村としては、ICP-2改定という、RIRという機構をイチから考える機会を、JANOGに集まる皆さんにもお知らせしたいと考えていました。そしてこのセッションを1人ではなく掛け合いでやりたい、それにはどなたを相手とするのが良いか考えた結果、以前のJANOGでスプリ

ンターネットに関するセッションで一緒に白畑さんをお願いし、セッションの内容を一緒に検討しました。

白畑さんはインターネットに強い愛着をお持ちで、スプリンターネットの時にはさまざまな事業者のビジネス上の判断などの状況を、素晴らしい洞察とともに提供していただきましたが、今回も、インターネットの根幹を担うRIRやNIRの重要性をどうやってJANOG参加者にお伝えするか、たくさん知恵を出してくださいました。そして、ICP-2改定という話題そのものよりも、そもそもIPアドレス管理という機能が具体的にどのような要素を持ち、それが好ましく機能しない時にどのような影響があるのか、といったところに主眼を置いていこう、ということになりました。いわば、ICP-2改定という話題を利用して、RIRとは、NIRとは何なのかを議論することにしました。

○セッションの展開

セッションでは、前村が口火を切った後、RIR/NIRは何なのかという議論の部分をすべて白畑さんをお願いすることになりました。白畑さんは、RIRがWHOIS/RDAP、RPKI、IRR、逆引きDNSなどで分配されたIPアドレスに関する情報を提供すること、そもそもIPアドレスの分配を責任を持って行った上でそれを管理すること、として本質的な機能を説明し、その管理方針がコミュニティ主導のポリシー策定プロセスによること、また、IETFなどがプロトコルを制定してIPアドレス空間自体を規定していることを示し、いわば「定義」を明確にした上で、「あったら怖いこんなNIC」として、コミカルな例も含めたいろいろな起こり得る問題を例示しました。

また、gTLDを中心としたドメイン名のレジストリの構造のIPアドレス管理との比較や、gTLD、RIR、ルートDNSサーバシステム3者の運営機構の比較などを示し、機構拡充に関しては、ビジネス競合や不正利用などに長年立ち向かい対策を先んじているgTLDの機構からは学ぶものも多いのではと指摘した上で、インターネットの根幹的なインフラであるRIRを支えるのはインターネットコミュニティの役目であると強調して、ご発表を終えました。

○フロアとの議論

この後15分ほど、フロアを交えた議論になりました。このセッションの司会を、JANOG運営委員であり、APNICとJPNIC双方の理事である松崎吉伸さんが務めてくださっていましたので、松崎さんにも質疑応答に積極的に参加していただきました。

冒頭前村から、gTLDはレジストリ同士が競合してビジネスをしている一方でIPアドレスでは資源浪費につながる競合を排して公正を期している、と補足説明しましたが、ドメイン名のようにRIR同士が競合するというシナリオはあり得るのか、という質問が出て、現状から大きく異なる状況を考えることで、RIR/NIRの本質に触れた議論となりました。この他に、今後どうやったら新しいRIRができるのか、APNICは新たなNIRの設立を正式に止めたがなぜか、といった普段はご披露することがない事項に関しても、JANOG参加者の皆さんにご紹介することができました。

○今後の展望

セッションが終わった後、担当プログラム委員からは「やはりこのようなセッションは続けていくべきだ」と言っていただいたのは嬉しかった

ですし、自分自身の感覚でも、JANOG参加者の皆さんにとって普段は縁遠いものの、インターネットの根幹を支える重要な機能であるRIRやNIRに関して、本質的な議論を行う機会を得られたことは、大変に意義深いと思いました。今後も積極的に情報提供を続けていこうと考えています。

▼ブース展示内容

出展したブースでは、セッションの内容に加え、以下のような取り組みを中心に紹介しました。

- IPアドレスに関する相談会
- RPKIの効果を確かめるデモ
- JPNICの普及啓発事業の紹介 (Internet Week、技術セミナーなど)

JPNICの活動をよくご存じの方からは、IPアドレスなどインターネットリソースホルダー向けの認証方式の変更や、RPKIのデモに関心が寄せられました。また、JPNICの普及啓発事業に関連して、後進の人材育成に関する悩みも多く聞かれました。一方で、インターネット基盤やJPNICの活動をあまり知らない方にも、私達の取り組みについて説明する良い機会となりました。

APRICOT 2025/APNIC 59カンファレンス報告全体概要および アドレスポリシー関連報告

APRICOT 2025/APNIC 59カンファレンス(以下、APRICOT 2025/APNIC 59)が2025年2月19日(水)～2月27日(木)にかけて、マレーシア・ベタリンジャヤにて開催されました。本稿では、APRICOT 2025/APNIC 59の開催概要と、アドレスポリシーに関する議論の動向についてご紹介します。

▼APRICOT 2025/APNIC 59開催概要

APRICOT 2025/APNIC 59は9日間の会期のうち、2月19日(水)～22日(土)をワークショップウィークとして、セキュリティ、自動化、DNSなど、さまざまなテーマを掲げたワークショップが行われ、2月24日(月)～27日(木)は議論の場となるカンファレンスウィークが行われました。

カンファレンスウィークでは、アドレスポリシーやルーティングセキュリティ、NIR(National Internet Registry; 国別インターネットレジストリ)、ソーシャルな課題など特定分野に関心を持つ人達が議論を行う「SIG(Special Interest Group)」をはじめ、カンファレンスの総括および全体報告が行われる「AGM(APNIC General Meeting)」や、各国NOGや国際組織のレポート、ピアリングフォーラム、ネットワーク技術に関する講演などが開催されました。

主催者報告によると、今回のAPRICOT 2025/APNIC 59では世界53の国と地域から、878名が参加しました。前年のAPRICOT 2024/APNIC 57のオンサイト参加者764人から100人以上増え、開催前に参加登録が締め切られるなど大盛況の回となりました。

会期中のセッションについては、動画、資料および発言録がWebで公開されています。もし興味のある内容がありましたらぜひご確認ください。

APRICOT 2025/APNIC 59プログラム

<https://2025.apricot.net/programme/programme#/>



▼オープンポリシーミーティング(OPM,ポリシーSIG)での議論とその結果

今回のAPRICOT 2025/APNIC 59では2件のポリシー提案について議論が行われました。

以下では、2件のポリシー提案の議論結果についてご紹介します。提案の内容や事前情報に関しては、JPNIC Blogにまとめていますので併せてご確認ください。また、IP-USERSメーリングリストでは、カンファレンス開始前にJPOPF運営チームによって、日本語での提案紹介および意見募集が行われています。今後の動向把握には、IP-USERSメーリングリストの登録をぜひお願いします。

APNIC 59でのIPアドレス・AS番号分配ポリシーに関する提案のご紹介

<https://blog.nic.ad.jp/2025/10520/>



IP-USERSメーリングリスト

<https://www.nic.ad.jp/ja/profile/ml/mailman.html#join-ip-users>



	prop-162:「WHOISプライバシー」
提 案 者	Jonathan Brewer氏 https://www.apnic.net/community/policy/proposals/prop-162/
概 要	1. APNICは公開WHOIS上の住所、電話番号、FAX番号、メールアドレスおよびOrg, IRT, abuse-c, roleオブジェクトに含まれる連絡先情報を削除する。 2. MyAPNICおよび認証済みAPIでのアクセスのみ連絡先情報を入手できるものとし、認証されていないAPIからのアクセスでは連絡先情報を開示しないものとする。 3. バルクWHOISのデータから連絡先情報を削除する。 4. 既存のバルクデータユーザーに連絡先情報をインターネット公開データ・システムから削除することと義務付ける。 5. APNICは認証済みAPIユーザーのリストと連絡先リクエストの統計情報を公開する。
結 果	コンセンサスに至らず

WHOISデータを目的外利用することは禁止とされていますが、実態としてWHOISを利用したとみられるセールスメールなどがメンバーの中で確認されていると言われています。提案者は当初WHOISデータを一括取得するバルクWHOISを対象とし、連絡先情報の削除を提案していましたが、それだけでは対策不十分であるとし、すべての公開されるWHOIS情報を対象に修正し、議論が行われました。

会場での議論ではRDAPについて言及がないがこちらはどのように考えるのか、prop-125 (abuse連絡先の正確性検証) との衝突はどうか考えるかなどがコメントとして挙げられました。また、連絡先情報の取得手段としてMyAPNIC (APNICメンバーのポータル) 経由で取得可能であるとしたが、アカウントを作成するという障壁は地域外の利

用者や警察などのステークホルダーには高いものになってしまうのではといった懸念が挙げられました。その他にこのような個人情報・データ保護のポリシーは国内法との整合性も併せて確認する必要があり、APNICが所在するオーストラリア法の確認が必要であるとコメントされました。

個人情報保護の方針に一定の賛成が見られましたが、WHOISに求める目的と個人情報保護のアプローチを精査するためにはもう少し時間が必要であるとの見方から、反対が多数派となりコンセンサスには至りませんでした。提案者は引き続きブラッシュアップを行い、次回継続議論に意欲的な姿勢を見せています。

	prop-163:「WHOISの透明性と効率性向上のためのRWhois実装」
提 案 者	Tsungyi Yu氏 https://www.apnic.net/community/policy/proposals/prop-163/
概 要	APNIC WHOISシステムを改修し、RFC 2167で定義されたRWhoisをサポートすることにより以下を実現する。 - 他のRIRまたはNIRデータベースへの問い合わせの自動リダイレクトを可能にする。 - 単一サーバの負担を軽減するため、階層的かつ分散的なクエリを実装する。
結 果	コンセンサス確認なし

RFC 2167で定義されるReferral Whois (RWhois) を実装することで、他RIR WHOISやNIR WHOISへのリダイレクトを実現し検索性を改善、単一サーバへの負荷軽減を図ろうという提案です。近年はRIR間でのIPv4アドレス移転も活発化し、1回のWHOIS検索で目的の情報まで辿り着けないこともしばしば起こっており、再割り振りリソースの情報登録もなかなか捗っていないとし、RWhoisの実装でこれらの課題が改善すると提案者は謳っていました。しかし、これらの改善は現在、普及が進められるプロトコル「RDAP」が担う所であるとの見方が事務局から示されていました。

会場からはNIR WHOISからのリダイレクトを実現するにはNIRとの協調が必要であるため、NIR SIGの場で話をしてみるべきといったコメントや、北米を管轄するARINでは既に一部RWhoisを実装しているものの、実際にはできていないこともあるとのことで、そのあたりの実状をARINに確認したり、意見をもらったりすると良いのではといったコメントがありました。

ポリシーとして議論をする前に必要なリサーチ課題が挙げられたことから、提案者は一度持ち帰り、次回以降あらためて議論を行いたいとして今回はコンセンサス確認は行われず、継続議論という形となりました。

▼ Resource delegation audit (リソース委任監査) について

APNICは自身とNIRのIPv4アドレス委任と移転について、過去10年間の履歴を精査し、ポリシーに準拠したものであるかどうかを確認するプログラムを実行しています。AGMではそのファーストレポートが行われ、最初の調査対象としてJPNICの確認が完了し、問題は見つからなかったことが報告されました。その他のNIRは2025年中を目処に確認を行い、ポリシーを遵守したレジストリ運営に努めていくとのことです。

詳細はAPNICブログの投稿もあわせてご確認ください。

Resource delegation audit update at APNIC 59
<https://blog.apnic.net/2025/02/27/resource-delegation-audit-update-at-apnic-59/>



▼ 次回以降のAPNICカンファレンスについて

回次のAPNIC 60は、2025年9月4日(木)～11日(木)、ベトナム・ダナンでの開催予定が発表されています。開催地決定の仕組みは、JPNIC Blogで記事としてまとめておりますので、こちらもご覧ください。

APNICミーティングはどこで開催されるの？

<https://blog.nic.ad.jp/2021/5846/>



APNICカンファレンスは、APNICメンバー以外の方にも広く門戸を開いています。ポリシー動向はもちろん、世界での最新技術動向やトレンドトピック、国際連携・国際交流に関心をお持ちの方は、ぜひ一度参加されてみてはいかがでしょうか。皆様とAPNICカンファレンスの場でおいでできることを楽しみにしております。

技術トピック

「技術トピックでは、2025年3月にタイのバンコクで開催された第122回IETFミーティング(IETF 122)の様子、国内IGF活発化チームの勉強会でJPNICの大谷が講演した内容、および2025年2月にISOC-JPと共催したハッカソンについてご紹介します。」



03 2025.3.15ー3.21
タイ/バンコク
IETF 122



第122回IETFミーティング

▼IETF 122のトピック

IETF 122は、タイのバンコクで2025年3月15日(土)から21日(金)まで開催されました。日本からの参加者数は、現地参加とリモート参加を合わせて74名で、過去数回とほぼ同程度の人数となりました。IETFの事後アンケートによれば、プログラムの満足度としてハッカソン関連がこれまでの会合以上に高得点となったようですが、その要因はわかっていないようです。

IETFブログでは2024年を簡単に振り返ることができる「IETF Snapshot 2024※」が公開されており、それによればRFCは173公開され、最新のRFCがRFC9779であることから、2025年度の後半には10,000を超える可能性が出てきました。

○BOF

IETFミーティングにおけるBOF (Birds of a Feather/以前はBoFと表記されていましたが、近年BOFとなっています) は、二つ行われました。BOFとは、IETFコミュニティにおいて関心のあるトピックについて初期の議論を行う場です。必ずしもWG設立を目的としなくても良いとされます。

○Non-Aggregatable Source-Routing (NASR)

ルーティング制御とフォワーディング機能を分離し、既存のIPネットワークと互換性を保ちつつ、エッジでのアプリケーションによる要件に基づいた経路制御を可能にするアーキテクチャの議論。IETF 120に次いで2回目。課題点やIETFにおいて取り組むことについて前向きな反応を示す参加者はいるものの、WG設立にはコンセンサスが得られにくい状況です。

the architecture of network attestation for secure routing

<https://www.ietf.org/archive/id/draft-chen-nasr-architecture-00.txt>

○Symmetric Key Exchange (SKEX) BoF

量子コンピュータに対して脆弱である、計算リソースが大きい、複雑さ

といった理由から、公開鍵暗号の代わりに共通鍵暗号技術を使った鍵交換の必要性を議論。WG設立を意識しているアジェンダであったが、この議論の動機やユースケースについて疑問の声があり、チェアからの参加者への問いかけでも、次に進めるコンセンサスは得られませんでした。

▼IETF 122に関連するブログ記事

IETF 122の後、さまざまなブログ記事が公開されています。技術動向の把握のために、参考になる内容を紹介します。

A Journey from Surathkal to the IETF, IETF Blog

<https://www.ietf.org/blog/our-first-ietf-experience/>

インドのカルナータカ大学の学部生による記事です。初参加ながらハッカソンに参加したり、WG会合で議論に参加されたりするなど活発に活動されていたようです。

DNS at IETF 122, APNIC Blog

<https://blog.apnic.net/2025/04/15/dns-at-ietf-122/>

議題の多いdnsopワーキンググループの動向紹介です。IETF 121以降のRFCを三つと、RFCエディター待ち、IESGのレビュー状態などに多数のドラフトがあります。DNSSECのCDSレコード、SVCBおよびQUICにおけるDANE、DNSにおけるハッピーアイボールなど、最近の話題が概説されています。

▼今後のIETFミーティング

次回以降のIETFミーティングは下記のように予定されています。今後とも、IETFにおける技術動向をJPNICからお伝えしてまいります。

IETF 123 - 2025年7月19日～25日 スペイン・マドリッド

IETF 124 - 2025年11月1日～7日 カナダ・モントリオール

IETF 125 - 2026年3月14日～20日 中国・深セン

IETF 126 - 2026年7月18日～24日 オーストラリア・ウィーン

IETF 127 - 2026年11月14日～20日 サンフランシスコ

※ IETF Snapshot 2024 <https://www.ietf.org/blog/ietf-snapshot-2024/>

これまでとこれからのインターネットを支える技術：耐量子暗号とDNS

国内IGF (internet Governance Forum) 活動について検討を進めている有志グループである「国内IGF活動活発化チーム」は、定期的に会合と勉強会を開催しており、2025年5月19日(月)の勉強会において、JPNICの大谷が耐量子計算機暗号(PQC)とドメイン名システム(DNS)について講演を行いました。

耐量子計算機暗号(PQC)については、従来の暗号方式とその限界、PQC標準化の流れ、各分野におけるPQCへの対応状況など、インターネットを支える技術としてのPQCを理解いただくための、初歩的な内容をお伝えしました。ニュースレターNo.81およびNo.82の10分講座もPQCに関連した内容ですので、併せてお読みいただければと思います。

これまでとこれからのインターネットを支える技術：
耐量子暗号とDNS

<https://www.nic.ad.jp/ja/materials/igf/20250519/>

ニュースレター No.81 暗号技術から見る量子計算機のいま

https://www.nic.ad.jp/ja/newsletter/No81/NL81_0800.pdf

ニュースレター No.82 耐量子計算機暗号とは

https://www.nic.ad.jp/ja/newsletter/No82/NL82_0800.pdf

引き続き、非技術者の方々に向けて、DNSについても解説しました。この内容は、ICANN RSSAC (ルートサーバシステム諮問委員会) のChairであるJeff Osborn氏の資料「RSS Messaging Project」について、同氏より許諾を得て日本語化してお伝えしたものです。エンジニアではない方々に向けた内容になりますので、初学者向けの資料としてご活用いただけますと幸いです。

DNSルートサーバシステム

非技術者に向けたご説明

<https://www.nic.ad.jp/ja/materials/igf/20250519/>

IETF発!技術ハッカソンをやってみよう ~第1回 SRv6 SFC編~

Internet Society Japan Chapter (ISOC-JP) とJPNICの共催で、2025年2月10日から18日にかけて、第1回「IETF発!技術ハッカソン」を開催しました。本イベントは、日本の若手エンジニアや研究者が、IETFにおける標準化活動に触れ、より積極的に国際的な技術議論へ関わるきっかけを得ることを目的としています。

初回のテーマは、IETFのSPRING WGで議論されているSRv6 SFC (Service Function Chaining) で、NTTコミュニケーションズ社(現NTTドコモビジネス社)の三島航氏を講師に迎え、未実装のドラフト仕様の一部を実装対象とする挑戦的な内容でした。GoやC言語を用いた開発経験を持つ、RFCやInternet-Draftに関心のある学生・若手技術者15名が参加し、JPNICオフィスとオンラインのハイブリッド形式で実施されました。



最終日には成果発表会を開催しました(講師席には三島氏(左)と筆者(右))



ハッカソンの成果をIETF 122で発表する三島氏

本ハッカソンで得られた成果の一部は、その後開催されたIETF 122 (バンコク)のハッカソンにおいて現地の参加者と共に実装や議論が行われ、セッション内での発表も実施されました。日本からの若手技術者による具体的なアウトプットが、IETFという国際標準化の場に届いた貴重な事例となりました。

今後は、より幅広い層が参加できるよう難易度や開催形式の多様化を検討しつつ、第2回は2025年秋頃の開催を予定しています。

(慶應義塾大学/ISOC-JP 石原 匠)

ドメイン名・ガバナンス

本稿では、2025年2月～2025年5月にかけての、ドメイン名およびインターネットガバナンスに関する動向として、第82回ICANN(The Internet Corporation for Assigned Names and Numbers)会議の様相をご紹介します。なお、インターネットガバナンス関連の話題については、P.7からの特集3「インターネットガバナンス関連動向」をご覧ください。



04 2025.3.8—3.13
アメリカ/シアトル

第82回ICANN会議



第82回ICANN会議

第82回ICANN会議(以下、ICANN82)は2025年3月8日(土)から13日(木)まで、米国のシアトルで開催されました。ICANN82は、前回に引き続き新gTLDプログラム次期ラウンド実施準備の堅調さが印象的な会議でした。

今回のICANN82には、2019年以降最多となる1,300名以上が現地参加しました。一方、遠隔参加は500名以上、参加国・地域数は129ヶ国ということで、これらは前回トルコ・イスタンブール開催のICANN81より少なくなっていて、コミュニティメンバーが多く在住する北米開催の特徴と言えます。地域別の参加者は、北米が53%と過半数を占め、アジア太平洋地域は14%でした。

▼オープニングセレモニー

前回ICANN81では着任前の次期CEOとしての挨拶でしたが、今回は着任して90日あまりが経過した正式な事務総長兼CEOとして、Kurtis Lindqvist氏が挨拶に立ちました。他のセッションでも発言を聞きましたが、コミュニティメンバーの声に耳を傾け、必要に応じてICANNの立ち位置やご自身の考えを力説する姿は堂々としたもので、職員や理事、コミュニティメンバーからも歓迎されている様子がうかがえました。

またLindqvist氏からは、2025年2月に亡くなったZita Wenzel氏の訃報に関する言及がありました。Wenzel氏はICANN創設直前にJon Postel氏の下、南カリフォルニア大学情報科学研究所(USC ISI)に勤め、ICANNの設立に尽力したとともに、ICANN設立後まもなく惜しくも亡くなったPostel氏に代わって、設立直後の事務局体制確立に尽力なさったとのことです。最初の理事会では、暫定副社長、CFO、書記に任命されたというエピソードが紹介されました。

その他定番である、理事会議長Tripti Sinha氏、NRO議長Hans-Petter Holen氏などの挨拶の後、IANAを統括するKim Davies氏が演台に立ちました。Davies氏からは、IANAの中でも雰囲気異なる業務として、全世界のタイムゾーンデータベースの管理が紹介されました。ちょうどオープニングセレモニーの前日、3月9日が米国は夏時間に切り替わるタイミングだったのが理由でしょうか。夏時間の採用と取りやめなどの変更は常に起こることのようで、それをほとんど気にし

なくてよいのは、IANAのタイムゾーンデータベースが世界中のスマートフォンや航空運行システムなどさまざまなシステムに配布されて自動的に反映されているからで、このタイムゾーンデータベース管理も、世界中のさまざまな関係者の協力で成り立っていると、Davies氏は強調していました。

また3月のコミュニティフォーラムで発表されるのは、コミュニティに対する貢献が著しいメンバーを表彰する、コミュニティエクセレンス賞です。各支持組織、諮問委員会の代表からなる選考パネルから発表されたのは、国コードドメイン名支持組織(ccNSO)から、.AS(アメリカ領サモア)のccTLDマネージャーである、Stephen Deerhake氏の名前でした。Deerhake氏はccNSO評議員を長らく務めるとともに、IANA監督権限移管に際してはICANN説明責任に関するコミュニティ横断作業部会(CCWG-Accountability)、移管後にはEmpowered Community Administrationで新たな業務フローの確立への貢献が顕著だったとのことです。

オープニングセレモニーに関する、録画、速記録などの資料は、こちらからご覧になれます。

Welcome Ceremony

<https://icann82.sched.com/event/1vpaZ/welcome-ceremony>



▼新gTLDプログラム次期ラウンドに関して

新gTLDプログラム次期ラウンドは、事務局によるさまざまな実施準備が組織的に進んでいます。その状況はさまざまなセッションで紹介されているところですが、ICANN82に向けた進捗状況は一つのドキュメントにまとめられ公開されています。

New gTLD Program: Next Round - Status Update for ICANN82

<https://www.icann.org/en/system/files/files/new-gtld-program-next-round-status-update-icann82-31-jan25-en.pdf>



前回ICANN81からの大きな進捗としては、2024年11月に申請者支援プログラム(ASP)とレジストリサービスプロバイダ(RSP)事前評価(レジストリに委託運用を提供する技術サービス事業者の資格認定のためのもの)の申請受付が開始されたことと、プログラムの詳細仕様を記述した申請者ガイドブック(AGB)に関して、草案全体のうち三分冊の最後が意見聴取に掛かったことです。現在のところ、今後AGB全体の意見聴取を2025年5月末までに開始、AGBの完成と理事会承認を2025年末までに終えた上で、2026年第2四半期に受付開始を見込んでいます。事務局による実施準備が進む中、ICANN会議では次期ラウンドに関する実施準備レビューチーム(Implementation Review Team, IRT、本件のIRTの略称はSubpro IRT)が五つのワーキングセッションにわたって作業を進めました。IRTは事務局における実施準備の状況について、GNSOを中心とするコミュニティメンバーによって確認するものです。Subpro IRTに関する各種情報、資料、議事録などは、以下のコミュニティWikiからご覧いただけます。

Subsequent Procedures Implementation Review

Team

<https://icann-community.atlassian.net/wiki/spaces/SPIR/overview?homepageId=112197640>



新gTLD次期ラウンドに関するセッションのもう一つとして、文字列類似性評価(String Similarity Evaluation, SSE)に関するセッションもありました。

String Similarity Evaluation and New gTLD

Program: Next Round

<https://icann82.sched.com/event/1vpaL/string-similarity-evaluation-and-new-gtld-programnext-round>



これは国際化ドメイン名(IDN)に関連するもので、新gTLD次期ラウンドのポリシー策定プロセス(Subpro PDP)の他に、IDNに関する迅速PDP(IDN EPDP)でも検討がなされ、その結果として次期ラウンドに向けて実施準備されるものです。IDNでは申請される文字列に対して、混同が予想される文字列をラベル生成ルールに従って定義し、異体字ラベルとして登録可能(allocatable)にするものと、登録禁止(blocked)にするものを定めますが、これを、次期ラウンドでの申請文字列だけでなく、既存の登録済みTLDや予約語、ccTLDにもわたって比較することが定められています。セッションでは、ICANNのIDNプログラム責任者や、IDN EPDPに参加したコミュニティメンバーからSSEの概要が解説されました。SSEのプロセスは定義に従ってかなりの部分を自動化しており、自動化プロセスの結果を最終的にSSEパネルが判断する、というワークフローになっています。

▼新たな理事

ICANN82では、新たな理事が2名誕生しています。ccNSOでは、第12

議席を任期半ばで辞任したKatrina Sasaki氏の後任を選ぶ選挙が進み、その結果ICANN82の直前3月5日に、Byron Holland氏の指名が発表されました。またGNSOでは、次回ICANN83で任期満了を迎える第13議席に座るBecky Burr氏の後任として、GNSO評議会議長を務めているGreg DiBiase氏が選出されました。

▼ASO ACによるICP-2(新RIR設立要件)改定作業

アドレス支持組織(ASO)アドレス評議会(AC)は、ICANN82では作業セッションを持ちませんでした。ICANN82の2週間前となるAPRICOT 2025の会期後に集中作業を行い、改定案の起草作業を終え、最終確認の段階にありました。改定案は2025年4月14日に公開され、各RIRとICANNにおいて意見聴取のプロセスに入っています。ICANNの意見聴取は、2025年5月27日まで実施されました。

▼第72回ICANN報告会

第72回ICANN会議での議論を紹介する報告会を、2025年4月18日(金)に、オンラインにて開催いたしました。当日のプログラムは次の通りです。

1. ICANN82会議概要報告
2. 国コードドメイン名支持組織(ccNSO)関連報告
3. ICANN政府諮問委員会(GAC)報告
4. ICANNの技術政策情報に関する報告
5. GNSOレジストリ・レジストラ部会状況報告
6. 次期新gTLD申請手続きポリシー検討状況報告
7. 理事会とASOを中心とした報告

第72回ICANN報告会の資料と動画は次のURLで公開していますので、本稿とあわせてぜひご覧ください。

第72回ICANN報告会

<https://www.nic.ad.jp/ja/materials/icann-report/20250418-ICANN/>



▼第83回ICANN会議

ポリシーフォーラムとなる次回第83回ICANN会議は、2025年6月9日(月)から12日(木)にかけて、チェコのプラハで開催されました。このプラハ会議の内容は、次号91号でご紹介します。

ICANN83 Prague Policy Forum

<https://meetings.icann.org/en/meetings/icann83>

